

目次

刊行の辞
 テキスト刊行の趣旨
 はじめに

第1章 コミュニケーション技術 1

第1節 介護におけるコミュニケーションの基礎 …………… 3

- 1 介護におけるコミュニケーションの目的 3
- 2 介護におけるコミュニケーションのしくみ 4
 「見る」と「観る」 「聞く」と「聴く」 「触れる」から「感じ取る」
- 3 介護におけるコミュニケーションの実際 6
 基本的な言語的コミュニケーション 話の聞き方 非言語的コミュニケーション 安心して暮らせるコミュニケーションの工夫
- 4 介護におけるグループでのコミュニケーション・なかまづくり 11
 介護におけるグループの種類 プログラム活動の内容 プログラム活動の目指すもの グループのもつ可能性 グループに対する援助の限界 プログラム計画実施上の注意点 体験を踏まえた援助を目指して

第2節 利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際 … 17

- 1 認知症の人とのコミュニケーション 17
 認知症とは 中核症状とそれに伴う行動・心理症状 コミュニケーションで求められる姿勢 コミュニケーションの実際 段階に応じたコミュニケーション
- 2 視覚障害のある人とのコミュニケーション 24
 視覚障害とは 視覚障害のある人を取り巻く課題 コミュニケーションで求められる姿勢 コミュニケーションの実際 まとめ
- 3 聴覚障害のある人とのコミュニケーション 27
 聴覚障害とは 日本語獲得以前の聞こえの障害 日本語獲得後の聞こえの障害 事例
- 4 失語症の人とのコミュニケーション 31
 失語症とは 失語症のある人を取り巻く課題 コミュニケーションで求められる姿勢と実際 まとめ
- 5 精神障害のある人とのコミュニケーション 34
 精神障害とは 精神障害のある人を取り巻く課題 コミュニケーションで求められる姿勢 コミュニケーションの実際 まとめ

| | | |
|---|---|-----|
| | とめ | |
| 6 | 知的障害のある人とのコミュニケーション | 37 |
| | 知的障害とは 知的障害のある人を取り巻く課題 コミュニケーションで求められる姿勢 コミュニケーションの実際 | まとめ |
| 7 | 福祉用具を用いたコミュニケーション | 40 |
| | 福祉用具とは コミュニケーションを支援する福祉用具 | まとめ |

第3節 多職種連携に必要なコミュニケーション …………… 46

| | | |
|---|---|----|
| 1 | 記録における情報の共有化 | 46 |
| | 記録の目的 記録の種類 介護記録の書き方と留意点 介護記録と個人情報保護 情報通信技術を用いた記録 | |
| 2 | 報 告 | 48 |
| 3 | 会 議 | 49 |
| | 会議の目的と意義 会議の種類 | |

第2章 生活支援技術 I …………… 53

第1節 生活の理解とその支援 …………… 55

| | | |
|---|------------------------------------|----|
| 1 | 生活とは | 55 |
| | 生きることと生活すること 介護福祉士が介入する生活の領域 生活機能 | |
| 2 | 自立に向けた生活支援 | 57 |
| | 生活支援とは 自立に向けた生活支援 生活支援技術と介護技術 | |
| 3 | 生活支援を行う技術 | 58 |
| | ICFの構成要素と相互作用 ICFの視点で生活機能をアセスメントする | |

第2節 移動の支援技術 …………… 61

| | | |
|---|---|----|
| 1 | 移動の意義と目的 | 61 |
| | 暮らしにおける移動・移乗の役割 移動行為の特徴 移動の介護の特徴 移動を困難にする要因 | |
| 2 | ICFの視点で移動をアセスメントする | 62 |
| | 移動のアセスメント 心身機能・身体構造の理解 移動行動を阻害する因子を見いだす | |
| 3 | 移動の介護に必要な知識 | 64 |
| | 姿勢・体位の保持 安楽な体位と褥瘡の予防 移動の介護のための原理 移動の介護のための留意点 | |
| 4 | 移動の介護技術 | 73 |

| | | | |
|---|-----------------|------|-------|
| | ベッド上の移動、体位変換の介護 | 歩行介助 | 車いす介助 |
| 5 | 移動の介護と福祉用具 | 90 | |
| 6 | 多職種との連携 | 92 | |

第3節 食事の支援技術…………… 94

| | | |
|---|--------------------|-------------------------------------|
| 1 | 食事介護の意義と目的 | 94 |
| | 生活における食事とは | 食事行動の特徴 食事介護の特徴 |
| 2 | ICFの視点で食事をアセスメントする | 95 |
| | 食事のアセスメント | 食事に関する生活機能について |
| 3 | 食事の介護に必要な知識 | 96 |
| | 楽しく安全な食事環境の確保 | 安全な食事のための留意点 脱 水の予防 高齢者の栄養に関する知識 |
| 4 | 食事の介護技術 | 101 |
| | 座位で食事をする | ベッドで臥床して食事をする 誤嚥のリス クのある人の食事介助 |
| 5 | 多職種との連携 | 107 |

第4節 排泄の支援技術…………… 110

| | | |
|---|--------------------|--|
| 1 | 排泄の意義と目的 | 110 |
| | 生活における排泄とは | 排泄行動の特徴 排泄の介護の特徴 |
| 2 | ICFの視点で排泄をアセスメントする | 111 |
| | 排泄のアセスメント | 排泄行動を阻害する因子を見いだす 排泄 の支援技術における安全の確保とリスク |
| 3 | 排泄の介護技術 | 113 |
| | トイレでの排泄の介護 | ポータブルトイレでの排泄の介護 お むつを使用する排泄の介護 尿器や便器で排泄をする要介護者の 介護 失禁のある要介護者の排泄の介護 医療と連携が必要な 排泄の支援 排泄介助における感染予防 |
| 4 | 多職種との連携 | 134 |

第5節 身じたくの支援技術…………… 136

| | | |
|---|----------------------|--|
| 1 | 身じたくの意義と目的 | 136 |
| | 生活における身じたくとは | 身じたく行為の特徴 |
| 2 | ICFの視点で身じたくをアセスメントする | 137 |
| | 身じたくのアセスメント | 身じたくの行為を促進する因子・阻害 する因子を見いだす 身じたくの支援技術における安全の確保と リスク 身じたくの自立に向けての支援技術 |
| 3 | 身じたくの介護の実際 | 139 |
| | 整容の方法 | 口腔ケア 更衣 |
| 4 | 多職種との連携 | 156 |

第6節 清潔・入浴の支援技術…………… 158

- 1 清潔の意義と目的 158
生活における清潔とは 清潔行為の特徴
- 2 ICF の視点で清潔をアセスメントする 159
清潔行為のアセスメント 促進因子・阻害因子を見いだす 安
全の確保とリスク 清潔の自立に向けての支援技術
- 3 清潔の介護の実際 161
入浴 入浴の方法 入浴の介護技術 清拭 全身清拭
の介護技術
- 4 多職種との連携 173
入浴における医療・リハビリ職との連携 入浴環境の整備のため
の連携
- 5 感染予防 174
感染予防の必要性和対策 感染予防の方法

第3章 生活支援技術Ⅱ…………… 179

第1節 居住環境の整備…………… 181

- 1 居住環境整備の意義と目的 181
居住環境整備とは 居住環境整備の意義と目的 居住環境整備
の要点
- 2 ICF の視点で居住環境をアセスメントする 186
居住環境のアセスメント 事例
- 3 住宅における居住環境整備の留意点 189
快適な居住空間 快適な居住環境整備の工夫 多職種との連携
- 4 集住での居住環境整備の留意点 193
施設での居住環境 施設における快適な居住環境整備の工夫
多職種・職員間の連携
- 5 バリアフリーとユニバーサルデザインを踏まえた居住環境 197

第2節 家事の支援技術…………… 199

- 1 家事の意義と目的 199
家事とは 家事の意義と目的 自立生活を支える意義と目的
- 2 ICF の視点で家事をアセスメントする 200
家事支援のアセスメント 事例
- 3 家事に参加するための介護 203

家事における生活支援の視点 家事における生活支援の基本
支援の方法と留意点

- 4 心身機能の低下による家事へのリスクと支援技術 210
感覚機能が低下している人 運動機能が低下している人 認
知・知覚機能が低下している人
- 5 多職種との連携 211
医療職との連携 介護支援専門員との連携 地域包括支援セン
ターとの連携 福祉用具事業者・住宅改修業者との連携 その他

第3節 睡眠の支援技術…………… 214

- 1 睡眠の意義と目的 214
- 2 睡眠の理解 214
概日リズム メラトニン 睡眠の周期 眠気と体温
- 3 ICFの視点で睡眠をアセスメントする 216
安眠のニーズ 睡眠のアセスメント
- 4 睡眠を阻害する因子を見いだす 217
健康状態、心身機能・身体構造の理解 環境因子 個人因子
- 5 安眠のための介護の実践 223
寝室環境の整え方 活動、参加への働きかけ
- 6 多職種との連携 229
- 7 事例 230

第4節 ターミナルケア…………… 233

- 1 ターミナル：その状況 233
寿命 ターミナルにいたる状況 どこでターミナルを迎える
か 尊厳を保持した死を迎えるための社会的運動
- 2 命の流れと介護（死に逝く人との関わり） 235
ターミナルケアの意味 死を受容するプロセス 死の受容と希
望 ターミナルにおける希望 ターミナルケアの目指すもの
- 3 ターミナルのプロセスにおける介護職の役割 238
死が予見できた時期 危篤を迎えた時期
- 4 家族に対する支援 243
- 5 グリーフケア 244

確認コーナー解答

索引